

ひこさきかいづか

彦崎貝塚確認調査現地説明会

平成 16 年 2 月 1 日 (日)

14:00~15:00

灘崎町教育委員会

1. はじめに

彦崎貝塚は、JR 彦崎駅から南に約 300m の標高約 5 m の台地上にあります。

昭和 23・24 年に東京大学理学部人類学教室^{とうきょうだいがくりがくぶじんるいがくきょうしつ}によって発掘調査が実施されました。この時には、約 30 体に及ぶ縄文前期の人骨とともに、土器を始めとした多量の遺物^{いぶつ}（縄文人の生活に関する道具類等）が出土しました。中でも、縄文土器は山内清男博士^{やまのうちすがお}によって瀬戸内地域を代表する基準資料^{きじゅんしりょう}として認定され、現在も広く知られています。

平成 15 年度は、3 力年計画で実施する彦崎貝塚確認調査の初年度にあたり、彦崎貝塚確認調査指導委員会の調査指導のもと、地元、研究者、大学生等の多大なる理解と協力を得て実施しています。県内では久々の縄文貝塚の調査です。



第 1 図 彦崎貝塚位置図

2. これまでの成果

◆今回の調査で何がわかったのですか？

- ① 貝塚の保存状態が極めて良好であること
- ② 西日本最大級の貝塚であること（長さ約100m、幅約40m、貝層最大厚1m以上）
- ③ この遺跡では、初めて縄文晩期の文化層が貝層に伴って確認されたこと
- ④ 前回の調査の検証が幾分かできたこと
- ⑤ 台地の縁辺部が一部確認できたこと
- ⑥ 新資料が追加されたこと（人骨、人工遺物、じんこういぶつ 動物遺存体、どうしょくぶつゐぞんたい 旧地形など）

◆今回の調査でも分からなかったことは？

- ① 居住空間がどこなのかが確定できなかったこと

ひこさきかいづか [彦崎貝塚データ]

所在地	児島郡灘崎町彦崎小字西ノ土井
地形	海岸段丘の微高地
遺跡の標高	約5～6m
遺跡の種類	貝塚
規模	最大長約100m×幅40m以上（縄文前期、彦崎Z I 式期）
貝の種類	43種類
時期	縄文時代前期後半～縄文時代後期後半（今から約5,500年～3,500年前）
縄文土器の型式	縄文前期：彦崎Z I 式、彦崎Z II 式、縄文後期：彦崎K I 式、彦崎K II 式
土器型式命名者	東京大学理学部人類学教室 山内清男氏、1951年
出土遺物	縄文人骨（約30体、ほぼ縄文前期のもの。全国的にも類例がない良好な残存状態） 縄文土器、石器、貝類、骨角・貝製品、動物遺存体、植物遺存体、
出土遺構	炉址、土壌墓、貯蔵穴？、カキの養殖場？
発掘調査履歴	・大正時代頃より、吉備考古学会の水原岩太郎氏・浦良治氏、佐藤美津夫氏らに遺跡が処女状態で残存していることが確認されていたが、調査はされなかった。 ・昭和23年5月30日～31日、東大人類学教室酒詰仲男氏試掘、灘崎中学校協力 ・昭和23年11月10日～17日、第1次発掘調査（東大人類学教室） ・昭和24年8月4日～8月21日、第2次発掘調査（東大人類学教室） ・平成15年9月～平成18年3月、灘崎町教育委員会 史跡整備に先立つ確認調査
文化財保護状況	昭和60年7月18日、灘崎町指定重要文化財（史跡・考古資料部門）



第2図 縄文中期成人女性人骨出土状況（南から）

3. 出土遺構（縄文人が残した生活の跡）と出土品^{しゅつどひん}

今年度の調査で出土した遺物の数は、テンバコで約 170 箱です。

【縄文時代前期】カキ主体（完形）の貝層（他種稀少）

遺構：土壌、焼土面（塊）、ピット

遺物：土器（羽島下層式、彦崎ⅡⅠ式、彦崎ⅡⅡ式・里木Ⅰ式、近畿北部の土器）、石器、骨角器（ヤス、貝輪）、動物遺存体、大腿骨（ヒト）

【縄文時代中期】カキ主体（破碎）＋小ぶりのハイガイ従の貝層

遺構：埋葬人骨（再葬）、土壌、焼土面

遺物：土器（鷹島式・船元Ⅰ式、船元Ⅱ式、船元Ⅲ式）、石器、骨角器（ペンダント、イヤリング、貝輪）、頭蓋、顎、指、歯、大腿の各骨（ヒト）

【縄文時代後期】カキ主体（完形、破碎）＋ヘナタリ従＋他種少量の貝層

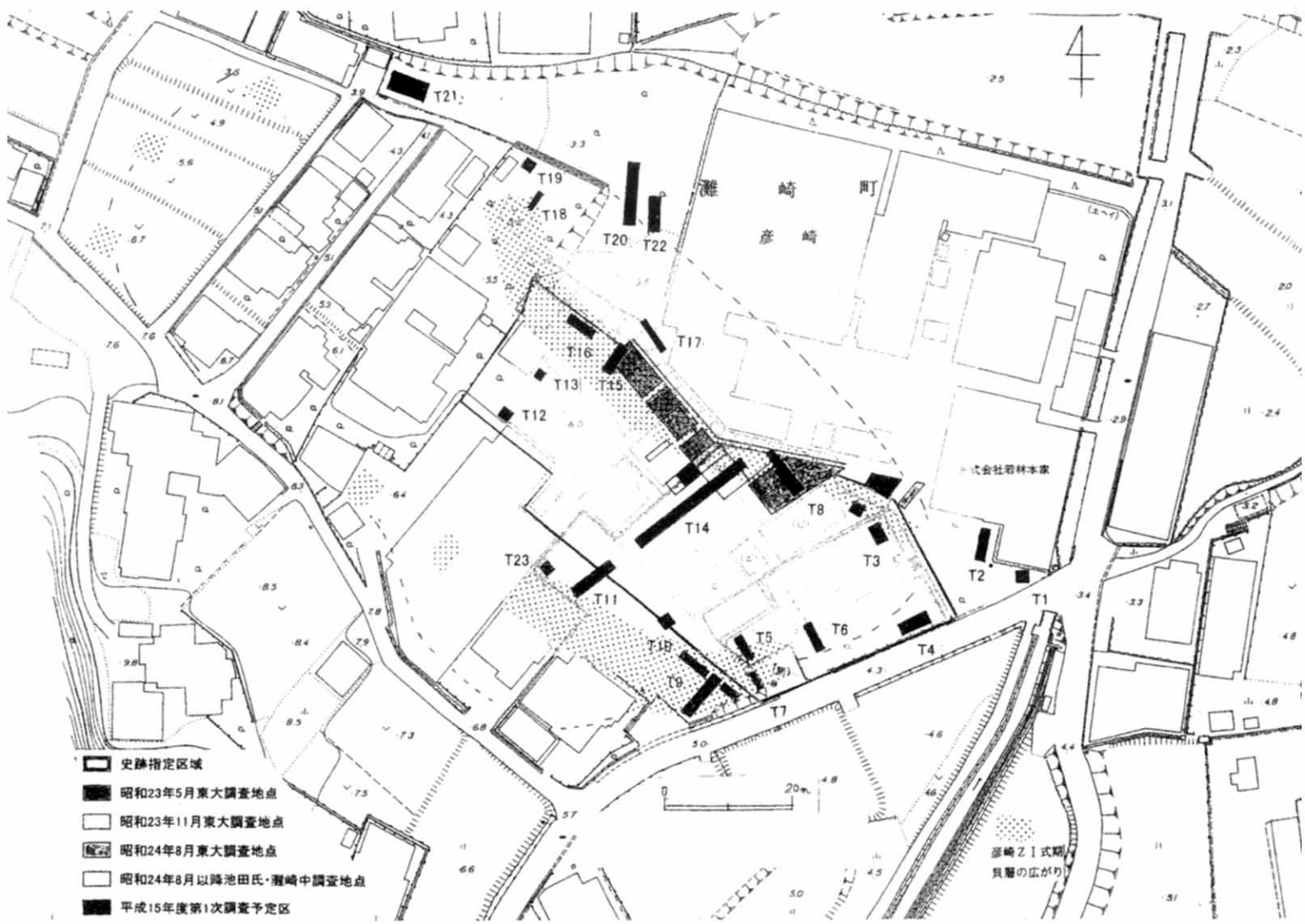
遺構：動物遺存体埋納土器、土壌、ピット

遺物：土器（前半の土器、彦崎ⅡⅠ式・Ⅱ式、元住吉山式、福田ⅡⅢ式）、石器、骨角器（ペンダント、イヤリング、腕輪）、多量の動物遺体、植物種子類

【縄文時代晩期】ハイガイのみの貝層

遺構：土壌状遺構、ピット

遺物：土器（前半から中葉、刻目突帯文）、石器、骨角器、動物遺体、植物種子類



第3図 トレンチ配置と縄文前期の彦崎貝塚

4. 今後の課題

今年度の調査では、予想以上の成果が得られました。しかし、解決しなければならない問題も出てきました。ひとつは、この貝塚を特徴付ける貝層中に含まれる礫の起源が何かということです。もうひとつは、中世段階にかなりの可耕地造成がなされ、前期以降は失われてしまった可能性が高いが、前期の場合は、厚い造成土の中に、良好な状態で保存されている場合があるので、地形を今一度確認する必要があると思われます。最大の課題は、居住空間の所在の追求です。

前節での成果をもとに、今後も地域一体となって、世界に誇る史跡「彦崎貝塚」の保存と普及活動に町を挙げて取り組んで行く所存です。